

番号	氏名	抱負
6	錦 成郎	<p>昨年度から副代表理事を仰せつかった関係で、全国の皆さまとお目にかかる機会が増えました。代表理事を補佐する役割として、当学会の大きな方針である国際化の必要性と意義について継続的に広報していくことが大切だと考えています。何よりも言葉が独り歩きすることのないよう注意しながら、ある時はいったん立ち止まって柔軟に微調整することも含めて、慎重に進めていきたいと考えています。</p> <p>今回、2年後のJRC2018の第74回総会学術大会の大会長を仰せつかりました。学術大会では、放射線技術学をキーワードにして、国際化だけでなく国内の関連する学問領域との交流をさらに深めることで、学際的発展の礎をしっかりと据えていきたいと考えています。たくさんの方々に演題を応募いただいて議論を深めるとともに、多くの出会いを楽しんでください。それらが当学会の未来を創っていく原動力になると考えます。今後ともご支援の程よろしくお願い致します。</p>
7	小倉 明夫	<p>代表理事を務めさせていただき2年が経ちました。おかげさまで、学会事業は大過なく順調に進んでおります。技術学会を取り巻く環境は、絶えず変化しております。われわれは、それらの変化を迅速に察知し、フレキシブルに対応していく必要があります。学会の学際化と国際化を鑑み、会員の声を反映させながら、今後も事業展開していきたいと考えています。</p>
8	林 秀隆	<p>昨年度より総務委員長として学会運営と新会員登録システムの構築に関わらせて頂いております。総務委員会は事務処理手続きや学会運営の基盤形成を中心に検討している縁の下力持ち的な存在のため、会員の皆様とお会いして発信する機会は少ないと思いますが、学会の将来を見据えて舵取りの一端を担っている重要な役割であると自負しています。学会の発展とサービス向上に全力で取り組んでいきますので、よろしくお願い致します。</p>
9	五十嵐 隆元	<p>2011年度より4年間放射線防護分科会長を務め、2015年度からは理事および新設された放射線防護委員会の委員長を務めております。この間では、福島原発事故の対応やJ-RIMEの本学会からの委員として診断参考レベルの策定や普及活動、防護分野における学会間の連携活動等を行ってまいりました。これらもまだ途半ばであり、今後も継続して会員および国民のための活動をしていきたいと考えています。また本学会の役員は、教官や大学病院、国立・県立病院の方が多くなっていますが、私は多くの会員と同じ市中の病院の診療放射線技師です。この第一線の医療現場の視点からの意見を今後の学会運営に反映させていきたいと考えています。</p>
10	中前 光弘	<p>H21年から近畿支部の理事に就任し、H23年の公益社団法人取得には代議員として立ち会いました。また、H25年からは本部の撮影部会委員やプログラム委員を兼任し、H27からは近畿支部の副支部長として、多くの学会関係者や会員の皆さまと接してきました。</p> <p>総会学術大会発表スライドの全面英語化と英語発表の推進、倫理規定の整備と科研費獲得など目覚ましい改革に足がすくんでいる会員も少なく無いと実感しています。しかし、その様な臨床現場で活躍する会員が真の研究を極めることこそが、この学会と放射線技術科学の発展につながるものだと信じています。学会の国際化を推し進めながら、研究倫理の更なる普及と臨床現場で活躍する診療放射線技師が、研究者として活躍できるための環境を整備し、サポート体制を確立するために、臨床現場で働く診療放射線技師の一人として理事に立候補させていただきました。皆さまのご支援をよろしくお願い致します。</p>